

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

***1957~1958年頃のネガアルバムを発見—その5— (干渉計、子午環、8吋、モノクロ)**

アーカイブ室新聞第492号に書いた堂平観測所資料の中にあつたネガフィルムアルバム報告の第5弾である。今回紹介する写真は、メモには干渉計アンテナ、子午環、PZT、8吋太陽観測中、太陽モノクロヘリオグラフ、極望遠鏡となっている。極望遠鏡はその後に大量の写真があるので次回に回す。それらの写真を並べたサムネイルが以下である。



写真1、2が干渉計の電波望遠鏡であろう。干渉計というからにはこのようなアンテナが複数なければならないが、写真1の中に勝手にそっぽを向いているが同じようなアンテナが2個ある。これが干渉計か。写真2はアンテナの構造を見せているのであろう。



写真1



写真2



写真3

写真3は、干渉計のデータリダクションをしているところであろうが、計算尺、算盤（そろばん）が見え、今時の計算機、パソコンなどは見ることはできない。写真4（ゴーチエ子午環棟）、写真5（PZT 観測棟）はすでにアーカイブ室新聞第494号に登場している。



写真4 ゴーチエ子午環棟



写真5 PZT 観測棟



写真6 8吋望遠鏡ドーム

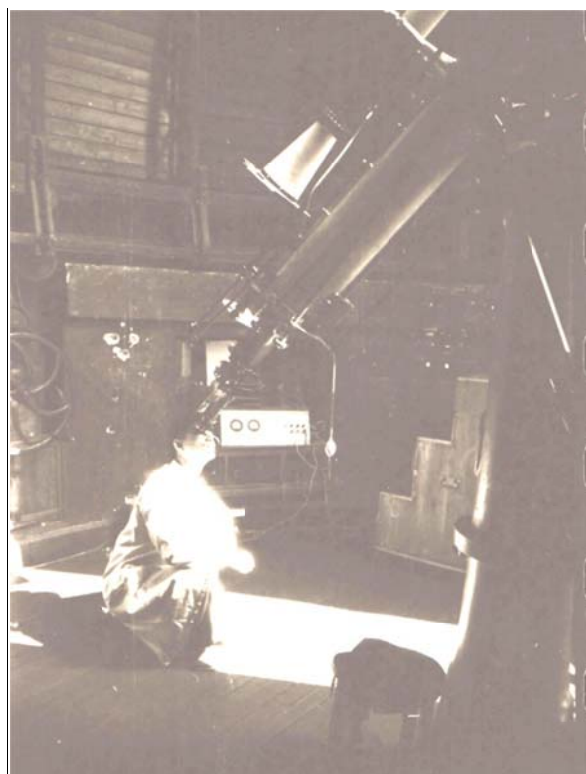


写真7 8吋観測光景

写真6は8吋（20cm）赤道儀望遠鏡ドーム、写真7は8吋望遠鏡での観測光景であるが、8吋望遠鏡で昼間、接眼レンズを覗いている様子は珍しい。この望遠鏡は主として太陽の黒点観測に用いられていたもので、投影板に太陽像をつくり黒点をスケッチする観測が行われていた。その様子が写真8である。写真8の人物は、筆者も知っている田中幸明氏と思われる。彼は長年太陽の黒点観測に従事していた。耳が不自由で、よく研究室に押し掛けられ筆談で話したことが懐かしい。現在は研究室に黒板がなくなってしまったが、当時は各研究室に黒板があり、黒板の前で議論したものである。



写真8 太陽の区点のスケッチ観測

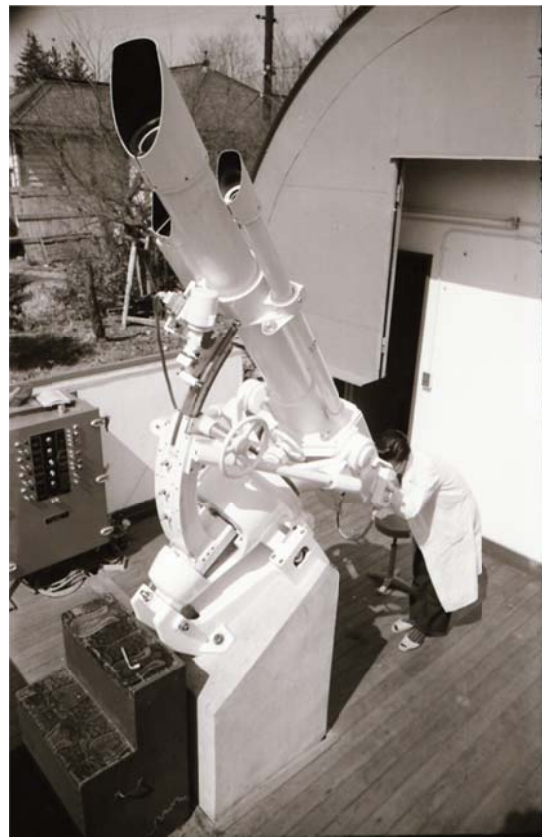


写真9 モノクロヘリオグラフ

写真9は、フランス製の太陽単色写真儀（モノフロヘリオグラフ）である。この望遠鏡の建物は国立天文台発足時に東京大学理学部天文学教育研究センターが出来る時、取り壊され、この望遠鏡も一時は行方不明になっていたが、筆者が民間の会社に流出したことを突き止め、現在は天文機器資料館に展示してある。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp